

前年度の重点目標	(1) 自ら学び、考えて行動できる生徒の育成 ア 生徒が自ら考え、判断し、行動する機会の提供 イ 協働して課題を解決したり、目標に向かって努力したりする場の設定 ウ 学校ホームページ等による生徒の活動紹介 (2) 主体的・対話的な学習活動の推進 ア 学ぶことに興味・関心をもち、主体的に授業に取り組める授業改善 イ 生徒同士の対話を取り入れた、教科指導における探究学習の推進 ウ タブレットや図書館を活用した効果的な情報収集と深い学びにつながる学習指導の工夫 (3) 高い志を育むキャリア教育の充実 ア 進路指導に関する情報の確かな発信と家庭との連携 イ 面談や進路行事等による進路目標の設定とその達成に向けた取り組みの支援 ウ 外部と連携した探究活動の実践による広い視野の獲得 (4) 健康な心身と豊かな人間性を育む教育活動の推進 ア 社会人としての規範意識と自律性の育成 イ 自他の生命を尊重し、互いの違いを認める態度の育成 ウ 生徒の心身の健康保持と安全・安心な学校生活のための支援 エ 働き方改革による教員の心身の健康保持とよりよい教育の実践		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (教務部)	①わかりやすく、知的 好奇心を喚起する授業 の実施	・学習指導マネジメントシートに従って PDCAサイクルを意識した授業展開 を行い、授業改善に努める。	・毎学期ごと、学習指導マネジメントシートを活用し、 教科ごとで授業反省を行い、授業改善に努めること ができた。
	②主体的な学びと学力 の深化を図る探究活動 の推進	・授業評価アンケートを利用し、教員の 自己点検、自己評価を実施する。 ・課題解決に向け、主体的に取り組むこ とのできる探究的な学習活動を取り入 れる。	・授業参観週間を設定し、職員間で互いの授業を参 考にして授業を改善しようとした。 ・校内研修を通して、探究的な学習活動を取り入れ る意識を持つことができた。
	③ICT機器やGoogle Classroom等を用いた 学習指導の工夫	・Google ClassroomやGoogleフォーム等 を用いて、生徒に授業評価アンケート を行い、授業改善に努める。 ・教科主任会などを通して、ICT機器を 用いた授業を展開することを積極的に 促す。 ・辞書アプリを積極的に使用するなど、 ICT機器を用いて、課題解決につな がる授業展開を目指す。	・辞書アプリの活用やGoogle Classroom等で課題指 示や連絡を行うなど、ICT機器を用いて、学習活動 の支援を行うことができた。
	④家庭学習の質を高め るための授業と連携し た学習課題の研究	・年2回家庭学習時間調査の実施 ・家庭学習強化週間の設置 ・授業での予習、課題点検の実施 ・課題未提出者への提出指導の徹底	・家庭学習強化週間で学習時間を平日より30分以 上増やすことができた。 ・週末課題の未提出率が目標値を下回っていない かを集計し、個別指導等に役立てることができた。
キャリア教育 (進路指導部)	①進路情報の確かな発 信	・「進路だより」の発行 ・講演会、説明会の実施 ・卒業生の合格体験記のHP掲載	・「学校は、進路についての情報を、よく提供してい る。」というアンケートで、8割以上が「そのとおりだ と思う」、「どちらかといえばそのとおりだと思う」と回答 した。引き続き情報発信をさらに充実していきたい。
	②個に応じた指導の充 実	・探究情報部による学びみらいPASSを用 いた生徒の適性の把握 ・担任面談の実施 ・進路検討会の実施 ・看護ガイダンスの実施 ・補習、特別講座の実施	・「学校は、生徒の希望と適性を活かした、適切な進 路指導を行っている。」というアンケートで、8割以上 が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそのと おりだと思う」と回答した。引き続き指導を充実させてい きたい。
キャリア教育 (探究情報部)	①「総合的な探究の時 間」によるキャリア意 識の向上	・探究プロセス（課題の設定、情報収集、 整理・分析、まとめ・表現）を意識し た指導に努める。 ・キャリア教育コーディネーターとの連 携を密にする。 ・地域社会と連携し、社会人講話や学校 外調査などの体験的な活動の充実を図 る。	・実社会にある「課題」について知ることができたか という質問に、9割以上が「できた」「まあまあできた」と 回答した。 ・地域社会と連携し、生徒600名が84社の企業団体 へのインタビュー調査に参加した。職業観や勤労観 を養い、自己の生き方あり方を考え、学びに向かう姿 勢を育てる機会を作ることができた。
生徒会活動 (生徒会部)	①生徒が主体的に取り 組める部活動・学校行 事の推進	・各行事の準備に積極的に取り組ませる。 また、積極的に入部を勧誘して、部活 動への参加を向上させる。	・自由登録制に変更したが、8割以上の生徒が登録 した。 ・運動部・文化部で優秀な成績を収める部活が増え てきた。 ・学校への貢献や活動そのものの更なる活性化をさ せるために、活動環境を十分保証したい。

生活指導 (生徒指導部)	①規範意識と自己指導力の向上	・早朝交通安全指導の実施 ・警察による交通安全講話の実施 ・学年単位の交通安全講話の実施	・雨天時の合羽未着用者のチェック指導を実施し、合羽着用の徹底を図った。 ・県警に依頼し、実演を交えた交通安全講話を実施し、法規とマナーを遵守するよう啓発活動を実施した。
	②いじめ防止を含めた人権教育の推進	・警察職員によるサイバー犯罪防止講話の実施 ・人権講話の実施 ・いじめの早期発見、事案への適切な対処	・保護者と連携して、「スマホ・携帯・PC使用ガイドライン10」の遵守を呼びかけ、ネットマナー確立に取り組んだ。 ・ネットパトロールによる監視を行い、不適切な投稿等の早期発見に努めた。 ・学校生活環境調査を実施し、生徒の学校生活における諸課題を早期に収集し、いじめなど重大事案の早期発見に繋げた。ただ、対応が難しいこともあるため、様々なケースに対応できるようにしていきたい。
学校保健 (保健厚生部)	①健康保持と安定した学校生活への支援	・定期健康診断の実施 ・救急蘇生講習会の実施 ・「保健だより」の作成 ・「自殺予防教室」の実施	・定期健康診断、救急蘇生講習会を予定通り実施した。「保健だより」は生徒保健委員に執筆させ毎月定期的に発行した。 ・「自殺予防教室」は「命のサポートプログラム」という名称で1・2年生を対象に夏休み中の出校日に実施した。
	②相談活動の充実	・長期休業明けに「心と体のストレスチェックアンケート」を実施 ・相談委員会の実施 ・SCやSSWとの連携強化	・ここ数年、教育相談案件が増加傾向にある。令和7年度は157件であった。学習不安に加え、家庭の問題や交友関係での問題など年々相談内容は多様化しているが、教育相談委員会や特別支援委員会などを開催し、教職員間の情報共有に努め、迅速に対応できた。また、SCやSSWに支援を仰ぎながら、適切に対応できた。
	③安心・安全な学校環境の整備	・毎朝の健康チェック ・感染症予防対策の実施 ・清掃点検の実施	・感染症予防のため昨年度と同様の感染防止体制を整えた。 ・美化委員が定期的に清掃点検を実施し、清掃状況の改善を果たすことができた。
多忙化解消 (管理職)	①ICTの活用による超過勤務時間の縮減	・退校時間の厳守 ・考査時間を利用した、早めの退校時間の設定 ・会議の実施の有無の見直し ・業務の見直しと再構築	・平常時の退校時間は、職員の協力もあり午後7時30分にほぼ徹底できた。 ・職員会議をペーパーレス化することで、会議時間の短縮を図ることができた。 ・新学習指導要領の実施やICT教育の実践等に伴う新たな業務が負担となり、業務の見直しによる超過勤務時間の縮減はできなかった。

学校関係者評価結果等

自己評価結果について	生徒・保護者・教職員の評価について、概ね良好な結果が得られているが、アンケートに回答した生徒・保護者・教職員の人数が少ないので、今後の方針を定めるためにはできるだけ多くの回答を得る方策が必要である。
今後の改善方策について	アンケートに回答する時間をLT等で確保し、全員のアンケート結果を回収できるようにする。アンケート結果から対応策を把握するために、クロス集計を提案された。
その他(学校評価委員会から出された主な意見、要望)	ICT教育について、タブレットを有効に活用する鍵は、双方向でのやりとりであると思う。 校則の改定については、生徒自身に考えさせるのも教育であると思う。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	学校評議員（5名） 5月、10月、3月